

【高齢者の現状 7】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(2) 充実した生活を求めて

毎日の生活を充実させることができるのかどうかで、楽しい生活がましますし、そこに時間の有意義な使い方も生まれます。それを実行するには、自然体が考えることが基本であり、そこに自分なりの答えを持つことが必要であり、社会、他人の答えはあくまで参考にしかありえないものであることを認識することから始まります。

病気にならないことはどうすれば実現できるのか。また、軽い状態で留まるようにするにはどうするのか。病気になった時には、後遺症の残らない状況になるためにはどうするのかなど、考えれば考える程深刻な方向に行ってしまうようになるのが常だと思います。

割り切った人生を送ることが必要であり、考え方も割り切ることが必要だと思います。そうしなければ前に進むことができなくなるものと感じますし、それを実行しなければ毎日の生活を充実させることができません。

そのためにも情報の収集、整理、活用をいかにするかにかかってくるものと思います。現在の社会は知って得することも多いが、心配の種になることも多いです。一番ほしいのは、「人生の本当のアドバイザー」だという結論に辿り着きました。だがそのアドバイザーがいませんし、それに近い人も見当たりません、どうすれば見つけることができるのでしょうか。

行政、NPO、地域団体などを見ても「人生の本当のアドバイザー」には辿り着きません。根本的にはそういう人は求めることが無理な世の中かもしれません。部分的には相談にのってくれますが、その先、範囲、影響、方向性となると確信部分に持って行くことができませんし、その人を独占することもできないし、金銭的にも無理が生じます。現実一生懸命に相談援助をしてくれる人がいますが、その人の境遇、待遇などを考えると心配になります。

制度として、ある程度相談援助を行ってもらえる機関があれば良いと思います。現在の状況、将来のことを考えてみると、急いで整備しなければならないものだと思いますし、その人材育成にかかる時間も必要です。

現実社会においては、自分の力で、「毎日の生活充実」、「楽しい生活」を継続させることはとても困難な時代です。どう考えどう行動することがベターなのかを考える作業の方法を、50代には最低考えることが当たり前になることが必要ですし、その方法、手順、作業が簡単な考え方で把握できる仕組みが必要です。

現在においては、自分である程度、将来を、現実、半年後、1年後、3年後、

5 年後、10 年後を予測し、問題点、課題、留意点を整理することがベターだと思います。一度考えて実行することをお勧めします。